

代表質疑

(発言順及び時間)

公明党 (180分)、みらい (150分)、緑風会 (135分)、日本共産党 (135分)、自由クラブ (120分)、自由民主党 (120分)、民主・連合・社民 (120分)、無所属の会・市民ネット (105分)、結いの党 (20分)、ボランティア (20分)、みんなの党 (20分)

※代表質疑の記事は3人以上の会派のみ掲載しています。(会派別議員名簿は10面に掲載)

防犯ボックス



コンビニエンスストアに設置された防犯ボックス

問 本市には、千葉県警察と市がモデル事業として実施している、コンビニ防犯ボックスが1カ所設置されており、周辺の住民から高い評価を得ていると聞く。設置による効果について、市はどう認識しているのか。また、市が独自にコンビニ防犯ボックスを設置していく考えがあるか問う。

答 本事業は、コンビニエンスストアに設置した防犯ボックスに午後2時から10時まで警察官のOBが常駐し、周辺の巡視や地域のボランティア団体と連携したパトロールを実施するもので、平成26年3月末までモデル事業の実施期間としている。期間終了後は千葉県警察が成果の検証をした後、6月頃に結果を公表する予定である。市では住民から「心強い」等の意見を聞いており、体感治安の向上につながったと考えている。このことから、公表される検証結果の内容を確認し、良好な成果が得られていた場合には、千葉県警察に対し本市内への増設を要

みらい

金子 正 田中幸太郎
並木 まき 荒木 詩郎
岩井 清郎 寒川 一郎

紙類の再資源化

問 市は、ごみの減量・資源化事業として紙類の再資源化促進のため、燃やすごみに含まれる紙類の約半分に当たる雑がみの回収を進めるとのことだが、資源化の効果はどの程度あると考えるか。また、雑がみにはカーボン紙やアイロンプリントに使う擦染紙等、混入禁止品があり、回収には市民への十分な周知が必要と考える。市の考えはどうか。

答 本市は、ごみの12分別を実施し一定の効果をおいているが、平成30年度における資源化率の計画目標値35%に対し、24年度の実績は21%にとどまっている。雑がみの半分程度を回収できれば、年間約2千t、資源化率にして1〜2%の効果と考えられる。A4サイズ1枚の混入で約100tが使えなくなるといわれる擦染紙等、雑がみ回収の際には、禁忌品の混入の影響について情報を周知し、分別の徹底を図っていく。

都市計画道路 3・4・18号

問 近年、道路の持つ防災機能の評価等により、道路建設に対する認識は変化しており、本市でも都市計画道路3・4・18号の早期完成が望まれる。本道路用地には今なお未買収のものや不法占有状態のものがあるが、市は平成27年度末までに本道路を完成させることができるのか。また、今後、業を進める。なお、未買収の土地に対して、代執行の説明をしていくと聞くが、代執行の実行に関し、市はどのように考えているのか。

答 本道路は、平成7年の事業認可以降、320名の権利者と用地交渉を進め、約99%の用地を確保している。北部区間は概ね完成し、南部区間は京成本線直下横断部築造工事等、27年度中に完成する予定であり、予定通りの完成を目指して事業を進める。なお、未買収の土地に対しては、代執行の提示等、努力してきたが明け渡しに至っていない。任意の明け渡しに努力しつつ他の道路築造工事を進め

望していく。また、市単独での設置は、本事業がコンビニの駐車場の一部を借りて実施すること、地元警察署との綿密な連携・協力を要することといった課題があるため、検証結果を勘案した上で可能性を検討する。

成が望まれる。本道路用地には今なお未買収のものや不法占有状態のものがあるが、市は平成27年度末までに本道路を完成させることができるのか。また、今後、業を進める。なお、未買収の土地に対して、代執行の説明をしていくと聞くが、代執行の実行に関し、市はどのように考えているのか。

占用地については、代替地の提示等、努力してきたが明け渡しに至っていない。任意の明け渡しに努力しつつ他の道路築造工事を進め

る。北部区間は概ね完成し、南部区間は京成本線直下横断部築造工事等、27年度中に完成する予定であり、予定通りの完成を目指して事業を進める。なお、未買収の土地に対しては、代執行の提示等、努力してきたが明け渡しに至っていない。任意の明け渡しに努力しつつ他の道路築造工事を進め

と共により、市民に事業の進捗状況や課題を説明していく中で代執行の判断をする必要があると考えている。

座を實施し、いじめの未然防止を図るとしているが、地域からの支援にはどのようなものがあるのか。いじめ防止対策推進法として子どもの話に耳を傾け、全ての小・中学校、特別支援学校にいじめを防止する組織の設置が義務付けられた。本組織は、複数程度の実施となるが、今後の教職員や心理・福祉等の専門知識を有する者等で構成するため、ライフカウンの活用を考えると共に座の内容充実を図ると共に、いじめ根絶に向け取り組む。

民主・連合・社民

守屋 貴子 石原よしのり
かつまた竜大 佐藤 義一

市民意見の反映

問 市長は、広く市民の声を聞き、的確に市政に反映させるよう努力してきた。多くの市民が市長を身近に感じるようになったのではないかと。2期目に入り、市民の真の声を聞き、市政に反映させるよう決意を新たにしていると思うが、そのための具体的な取り組みをどう考えているか。また、市長と市民とが市政について議論する場を設けることについてはどう考えるか。

答 1期目は公約である市政戦略会議を設置し、既存事業の改善提案等、市民の声を市政運営に反映してきた。また、可能な限り地域の行事に出向き、直接市民と話をする機会を設けることで、地域ごとに異なるニーズを把握することができたと考えている。現時点ではこの手法が最良であると考えており、これまでの取り組みで市民との関係も深まってきているので、2期目も市民の声をしっかりと聞いていきたい。

美しい景観づくり

問 施政方針で、市長は2期目の理念として美しい景観づくりを掲げている。市が対処すべき数ある課題の中で、美しい景観づくりを最優先に掲げた理由を問う。また、落ち着いた住宅街に高層マンションが建設され

ている現状について、まちの質と価値という観点から、市長はどのように認識し、対処すべきと考えているか。歴史や文化等多くの要素からなる地域の共有財産である。市の将来像を意識し着実に取り組むことで愛着や魅力が向上するため、人口減少社会において都市間競争に勝ち抜き市の魅力を向上させる極めて戦略的な施策と考えている。また、マンション等の建築行為の際には条例により色彩指導を行っている。歩く人の視線に着目した景観誘導が重要と考え、これによりまちの質と価値を高めていきたい。

女性職員の登用の

問 施政方針に、女性の登用を積極的に進めるとある。しかし、平成25年度は女性の副市長こそ誕生したが、女性の部長は24年度の3名から1名となるなど、女性管理職の割合は少ないのが現状である。女性の登用に

ついて、現状に対する認識と分析している。25年度に

を問う。また、女性の登用を実現するための具体策について、市はどう考えるか。市政策や方針の決定の場において、女性の視点や能力が十分に発揮され活躍できることを望んでいる。市職員の女性管理職の割合は、経年では若干増加しているものの、男性と比べ依然低い状況であり、管理職試験の受験率の低さが要因と分析している。



真間川沿いの住宅地

実施した意識調査では、回答した女性職員の6割以上が、管理職になりたいとは思わないという回答だった。今後、女性職員が意欲と自信を持って働けるよう、女性職員向け研修の拡大の他、男女共同参画の意識の醸成やワーク・ライフ・バランスの啓発等、仕事と家庭を両立できる職場環境の整備を進めたいと考えている。